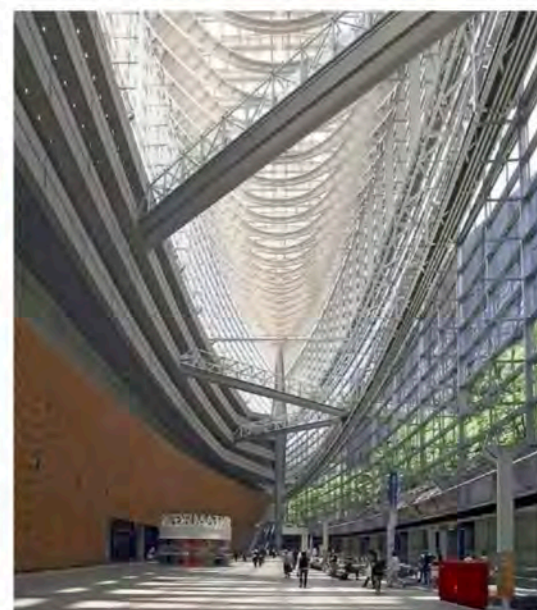
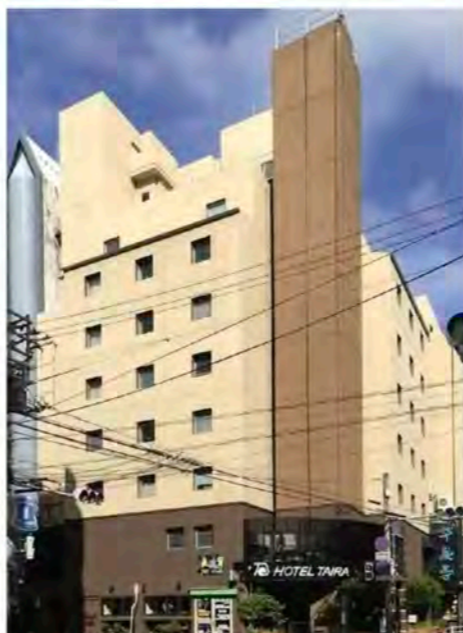


那覇西給油所・ホテルタイラ (那覇市)

沖縄に思い寄せた

構造家・渡辺邦夫

建築探訪 Part II
文・写真/福村俊治 ⑪



上/那覇西給油所 建築家・仲宗根宗誠との協働。施工精度が高く塩害に強いPC構造デザインによって沖縄らしい半戶外空間が生まれた。下左/柱から跳ね出したPC梁やルーバー部材から成る大きな屋根。下右/柱とPC梁とルーバーの納まり詳細。(写真/新建築)

ホテルタイラ。建築家・仲宗根宗誠と渡辺の協働。壁厚40mmのRC無梁版の構造デザイン。施工大城組

台湾桃園国際空港。建築家・園紀彦と渡辺の協働。500万人想定空港を3倍に増やしたため外部を内部化する改修工事を手掛けた。カタナリー状鉄骨+PCルーバー型構造。2017年台南市コンベンションセンターコンペのため筆者と訪れた際の一枚。右が渡辺

東京国際フォーラム。建築家ラファエル・ヴィニオリと渡辺の協働。ガラス棟は鉄骨構造デザインの明るい大空間が広がる(写真/SDG)



ふくむら・しゅんじ 1953年、滋賀県生まれ。関西大学建築学科大学院修了後、原広司+アトリエ

リエファイ建築研究所に勤務。1990年空間計画VOYAGER、1997年teamDREAM設立。沖縄県平和祈念資料館、沖縄県総合福祉センター、那覇市役所銘刻庁舎のほか、個人住宅などを手掛ける

「ご冥福を祈りたい。(敬称略)」
毎月第2週に掲載

昔、東京フォーラムの現場見学に行ったら初対面の私に「そもそも構造デザインとは」と熱く語った渡辺の姿が思い出深い。日曜学校の放課後、SDG出身で沖縄在住の中本克二さんや受講生と沖縄の構造の可能性を話した。沖縄では構造的デザインが重視されることが多い。「構造デザインこそが新しい沖縄の建築をつくる礎で、みんなで議論しながら設計するコラボレーションこそが大切だ」との渡辺先生の教えを実践したものだ。

そして耐震や積算や施工なども含めた、総合的で初めて聞く構造の話だった。海外や国内の多くの建物写真や詳細図を使い、時には建築家の批判や自らの失敗もあからさまにした4時間12回の講義は実に楽しかった。

構造デザインこそ礎

渡辺は日大建築学科を1963年卒業後、建築家・前川國男の事務所と同じ建物内にある横山不学建築構造事務所に入所。日曜日、ひとりで仕事をしてい

ると現れる前川先生の建築の話や聞くのが楽しかった。64年木村俊彦構造事務所に移籍、69年からSDGを主宰し、多くの若手構造家を育てた。

昔、東京フォーラムの現場見学に行ったら初対面の私に「そもそも構造デザインとは」と熱く語った渡辺の姿が思い出深い。日曜学校の放課後、SDG出身で沖縄在住の中本克二さんや受講生と沖縄の構造の可能性を話した。沖縄では構造的デザインが重視されることが多い。「構造デザインこそが新しい沖縄の建築をつくる礎で、みんなで議論しながら設計するコラボレーションこそが大切だ」との渡辺先生の教えを実践したものだ。

そして耐震や積算や施工なども含めた、総合的で初めて聞く構造の話だった。海外や国内の多くの建物写真や詳細図を使い、時には建築家の批判や自らの失敗もあからさまにした4時間12回の講義は実に楽しかった。

そして耐震や積算や施工なども含めた、総合的で初めて聞く構造の話だった。海外や国内の多くの建物写真や詳細図を使い、時には建築家の批判や自らの失敗もあからさまにした4時間12回の講義は実に楽しかった。

そして耐震や積算や施工なども含めた、総合的で初めて聞く構造の話だった。海外や国内の多くの建物写真や詳細図を使い、時には建築家の批判や自らの失敗もあからさまにした4時間12回の講義は実に楽しかった。

そして耐震や積算や施工なども含めた、総合的で初めて聞く構造の話だった。海外や国内の多くの建物写真や詳細図を使い、時には建築家の批判や自らの失敗もあからさまにした4時間12回の講義は実に楽しかった。

そして耐震や積算や施工なども含めた、総合的で初めて聞く構造の話だった。海外や国内の多くの建物写真や詳細図を使い、時には建築家の批判や自らの失敗もあからさまにした4時間12回の講義は実に楽しかった。

そして耐震や積算や施工なども含めた、総合的で初めて聞く構造の話だった。海外や国内の多くの建物写真や詳細図を使い、時には建築家の批判や自らの失敗もあからさまにした4時間12回の講義は実に楽しかった。